

昭和から続く北海道えりもの天日干し日高コンブの生産と藻場再生によるCO₂吸収

えりも町・えりも漁業協同組合・えりも岬の緑を守る会



プロジェクトの背景

昭和初期、えりも岬周辺は「えりも砂漠」と呼ばれ、砂漠化と土砂流出で海域環境が悪化しました。

- 1 砂漠化したえりも岬
- 2 地域を守る住民の努力
- 3 持続する環境改善の意思

森林伐採等により砂漠化が進み、沿岸海域は流出した土砂により濁りが発生し魚が寄りつかず、昆布は根腐れを起こすなど著しく悪化しました。

昭和28年にスタートした百人浜緑化事業により、町民が協力して森林と海を再生し豊かな環境を取り戻しました。

現在でもその取組の意思は引き継がれ、地域と共に海と森の保護活動が進行中で、環境再生を目指しています。

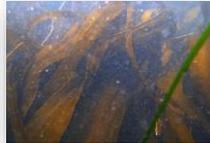
プロジェクトの概要

植樹や雑海藻駆除を通じて海域環境を改善し、持続可能なコンブ漁業によるCO₂吸収を促進します。



植樹と環境保護

えりも町では植樹活動を行い、海岸線の緑化を推進しています。この取り組みは、流出する土砂を減少させ、海域環境の改善に寄与しています。



雑海藻の効果的な駆除

漁業者は雑海藻の除去作業を行い、海藻の着生基質を改善しています。これにより、健康なコンブ藻場の維持と繁殖が促進されます。



持続可能な漁業管理

CO₂吸収を最大化するため、漁期を短縮しつつ手作業での漁法や天日干しを採用し、環境への影響を最小限に抑えています。



特徴・PRポイント

天日干しと手作業での環境配慮に重点を置き、グリーン&ブルーカーボンに貢献するコンブ生産。

天日干しの利点

CO₂を排出しない天日干しにより、エネルギー消費を抑えつつ、高品質なコンブを生産します。気候変動に優しく対応する方法です。

自然の力を利用した雑海藻駆除

波の力を利用するチェーン振り雑海藻駆除により、海中環境を守ることに努めています。

グリーン&ブルーカーボン

植樹や藻場再生でCO₂貯留を進め、気候緩和に貢献。地域の自然環境保護を目指します。



コベネフィット (地域の活動との連携)

環境教育やエコツーリズム、映画制作を通じて地域と密接に連携し、持続可能な未来を共に目指します。

環境教育の推進

町内の小中高で、児童が参加する磯そうじやブルーカーボンに関する授業を実施しています。

エコツーリズムの展開

漁業者がガイドするコンブボートクルーズを行っており、地域の自然を観光資源として活用しています。訪れた方に地球環境への意識を啓発しています。

映画制作による啓発

緑化事業を題材にした映画「北の流水(仮)」の制作を進めています。地域の取り組みを広く伝えることで、地元経済と環境意識の向上を図ります。

● 持続可能性

サステナブルな漁業管理とクレジット収入を活用した藻場保護策による持続可能な地域貢献。

● 独自性・先進性

北海道初の天然コンブ活用ブルーカーボン事業とAIによる藻場研究が地域環境保全を新たな次元へ導きます。

